

## 広島県 豊竹東・尾三・福山圏域 総合水産基盤整備事業計画 (R4～R8)

### 1. 圏域の概要

#### (1) 水産業の概要

##### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当該圏域は、沿海に5市1町（東広島市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、大崎上島町）が位置しており、各市町においては、水産振興計画等に基づき、担い手育成や地魚のブランド化等の取組みが進められ、圏域内の漁業者とともに持続的な漁業生産体制の構築を目指している。

当該圏域には、海面漁業協同組合は19漁協あるが今後の合併予定はない。

##### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当該圏域の主要な漁業種類は、海面漁業では、小型底びき網、いわし船びき網、定置網、ひき縄釣となっており、養殖業では、かき養殖、のり養殖となっている。

市町別統計値が公表されているH30年農林水産統計では、生産量は海面漁業1,658トン、海面養殖業7,135トンであり、主要魚種の実生産量は海面漁業で、タコ類188トン、マダイ170トン、タチウオ72トン、クロダイ72トン、イカ類62トンなどとなっており、海面養殖業では、かき養殖4,045トン、のり養殖3,026トンとなっている。

近年の資源動向としては、直近5年間で漁船漁業の漁業生産量が893トン(2,551トン⇒1,658トン)減少していることから示されるように、全体的に減少傾向にあるが、積極的な種苗放流、藻場造成等の漁場整備及び漁業者主体の資源管理を一体に進めてきた結果、キジハタやガザミなど漁獲量の増加が確認されている魚種もある。

圏域内には県内最大の種苗生産拠点である広島県栽培漁業センターがある。

##### ③ 水産物の流通・加工の状況

当該圏域の水産物は、産地仲買への出荷が大半であり、仲買業者は買い付けた水産物を広島市や福山市中央卸売市場などに出荷しているが、近年では、浜売りや朝市など漁業者の直売の取組みも増えてきている。

加工品としては、代表的なものとして、尾道市のデベラ、福山市の煮干し、乾のりなどがある。また近年、三原市では漁業協同組合が加工施設を整備し、組合員が水揚げしたタコを冷凍品等に加工し、飲食店や消費者へ販売している。

輸出については、小規模ではあるが大崎上島町の塩田跡地を利用して生産されている殻付きカキが東南アジアを中心に出荷されている。

##### ④ 養殖業の状況

当該圏域では、かき養殖が東広島市、福山市、大崎上島町において行われている。このうち福山市においては、平成 30 年から県栽培漁業センターで生産された 3 倍体種苗を用いて養殖が開始され、新たな殻付きかきの産地化を目指し、夏場の生食用殻付きかきとして関東の飲食店を中心に出荷されている。

また、福山市ではノリ養殖も行われており、生産された乾ノリは漁連共販に出荷後、業務用として流通している他に、陸上養殖によりアオノリ養殖も行われている。

その他、大崎上島町では、ご当地サーモンとして人気の「広島サーモン」の養殖が行われ、県内飲食店を中心に出荷されている。

#### ⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

2018 漁業センサスにおける漁業経営体は 722 で、小型底びき網 113、船びき網 23、定置網 37、ひき縄釣 40、海面養殖 47 などとなっており、前回の 5 年前と比べ約 16% (140 経営体) 減少している。国の研修制度等を活用し、新規就業者の確保、育成に取り組んでいるが、今後もこの傾向は継続するものと予想される。

#### ⑥水産業の発展のための取り組み

当該圏域の東部に位置する備後圏域の沿岸 4 市（福山市、三原市、尾道市、笠岡市）が連携し、地魚の地産地消の推進や漁業者の所得向上を図るため、4 市で水揚げされた水産物を「備後フィッシュ※」としてブランド化を推進している。

※備後フィッシュ・・・備後圏域の漁業者を対象に「季節毎の推奨魚種」について、アンケートを実施し、その結果を基に 25 魚種を選定し、「備後フィッシュ」としている。

また、当該圏域の中央に位置する尾道市では、近年、漁獲量の増加が見られるキジハタ（アコウ）のブランド化を目指し、「尾道季節の地魚の店連絡協議会」が主体となり、飲食店等と連携し「アコウ祭り」を開催する等、地域が一体となった取組が進められている。

その他、JA直販施設「ええじゃん尾道」での販売、「鞆の鯛網」や田島の「定置網観光」など、都市漁村交流と漁業者の所得向上の取組が行われている。

#### ⑦水産基盤整備に関する課題

・漁港施設の機能を健全に維持していくためには、施設の長寿命化に向けた取組みの推進や、更新コストの平準化・縮減等を検討する必要がある。

・しかし、3 市（東広島市、三原市、尾道市）8 漁港はいずれも市管理漁港で且つ、小規模漁港のため、水産物供給基盤機能保全事業の採択要件を満たしておらず、単独費による対応では財政負担が大きい。

・特に当該圏域では、小規模漁港が多数存在し、また、漁協集荷がなく、漁業者自ら仲買業者、加工業者等へ直接販売するという独自の流通経路が確立しているた

め、漁港機能の集約化の可能性は極めて低い。

- ・当該海域では、藻場を形成する岩盤域が少ない上、本土部沿岸域を中心に、浅海域の環境悪化により藻場が衰退しており、重要魚種であるキジハタ等の仔稚魚期の生息環境が整っていない。

- ・かき養殖では、近年、採苗不調による生産の不安定化や、海水温の上昇によるへい死、生育不良が発生しているため、漁場環境を迅速に把握し、得られたデータを蓄積・活用する養殖体制の確立が求められている。

### ⑧将来的な漁港機能の集約化

- ・今後、漁港施設の統合や廃止、同一漁港内での機能再編の実施は予定していない。

- ・集・出荷機能としては、竹原市エリアは港湾拠点の竹原港及び忠海港に、三原市・尾道市エリアは港湾拠点の尾道糸崎港に、福山市エリアは港湾拠点の福山港に、離島である泊漁港は海老漁港に、離島である走漁港は流通拠点漁港である草津漁港に水産物を集約する。増養殖・畜養殖強化機能としては、横田漁港で中間育成を行ったヨシエビを田尻漁港において放流している。

### (2)圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由； 主に海面漁業が中心の圏域であり、「さわら瀬戸内海系群資源回復計画」など資源管理型漁業に向けた取り組みに連携がみられる。また、大崎上島町の広島サーモン、尾道のキジハタ、三原のタコや走のチリメンなど各地で地域ブランド化に向けた取り組みは盛んな地域であり、相乗的な効果が期待される。
② 圏域範囲	東広島市，竹原市，三原市，尾道市，福山市，大崎上島町	設定理由；拠点港である尾道糸崎港・福山港への水産物の集約が及ぶ範囲である。
③ 流通拠点漁港	「該当なし」	設定理由；該当なし
④ 生産拠点漁港	走漁港	設定理由； 利用漁船数 338 隻，属地陸揚金額 10 億円。 県内で最大の漁船数を有しており，

		農商工連携として「走島ちりめん」の販売を実施しており、今後も中核的な生産拠点としての活躍が期待できる。	
	吉和漁港	<p>設定理由；</p> <p>利用漁船数 134 隻，属地陸揚金額 2 億円。</p> <p>キジハタ（アコウ）のブランド化や「ええじゃん尾道」を中心とした漁業者の直販取組みを進めており、今後も中核的な生産拠点としての活躍が期待できる。</p>	
	横田漁港	<p>利用漁船数 33 隻，属地陸揚金額 0.6 億円。</p> <p>6 次産業の動きとして「瀬戸内漁師市場」（集出荷～販売）や漁業者自ら新鮮な魚介類を船上から観光客や地元住民らに直売する「漁師の浜売り」のイベントを開催するなど、今後も中核的な生産拠点としての活躍が期待できる。</p>	
	箱崎漁港	<p>利用漁船数 181 隻，属地陸揚金額 7 億円。</p> <p>県内のノリの主要産地であり，ボラを活用した「ぼらコロ（コロッケ）」を開発するなど，水産物の販売促進への取組を行うなど，今後も中核的な生産拠点としての活躍が期待できる。</p>	
(令和元年)			
圏域の属地陸揚量(トン)	4,020	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,163
圏域の総漁港数	20	圏域内で該当する漁港数	－
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	3	圏域内での輸出取扱量(トン)	－
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	<p>豊竹東</p> <p>設定理由； 1 地域で同一魚種を大規模に養殖生産しているため。</p>		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	かき
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(ト)	4,093 トン（殻付き）
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	759 百万円

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	福山 設定理由；1地域で同一魚種を大規模に養殖生産しているため。
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	のり
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(ト)	2,349 トン
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	551 百万円

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

該当なし

#### ②養殖生産拠点の形成

・生食用殻付きかきについては、海外需要の拡大が見込まれており、国内需要にも対応しつつ、輸出量を増加させるには、生産性の安定化が必要不可欠である。一方で、近年、採苗不調やへい死等により生産が不安定化しているため、かき養殖に必要な漁場環境データや生産情報等を集積・活用するシステムを構築し、広島かきの生産安定化を図る。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

現状の資源量は藻場・干潟の減少等の環境悪化により低くなっていると考えられることから、自然増加量も小さくなっていることが推察され、これに伴い漁獲量も減少している。

そのため、放流効果が高い地先定着型魚種であるオニオコゼ、キジハタ等を継続的に放流するとともに、稚魚の育成場となる増殖場（藻場）の整備によって、生息適地の拡大や改善、餌料環境の改善を行う。藻場のモニタリングについては、増殖場の整備海域や本圏域を含む県内全海域を対象に適時実施し、実施結果を踏まえ、

県、市町、漁業関係団体、教育・研究機関等の関係機関で評価・検証し、効果的な藻場保全に取り組む。

また、改正漁業法に基づく新たな資源管理体制へと速やかに移行させ、実効性の高い資源管理を推進し、資源の増大を図る。

## ②災害リスクへの対応力強化

耐震・耐津波に対する機能診断については、平成27年度までに拠点漁港について完了している。当該圏域では、生産拠点漁港の横田漁港、走漁港及び箱崎漁港における主要岸壁については、所要の設計震度（レベル1地震動）は満足していないが、変形照査（FLIP）において、全て許容基準値を満たしているため、当面の整備における緊急性は低いと考えるが、漁港施設の利用実態を鑑み、必要に応じて検討を行う。

また、同じく生産拠点漁港の吉和漁港においては、変形照査（FLIP）及び許容基準値いずれも満たしていないものの、変形量は小さいため、漁港施設の利用実態を鑑み、必要に応じて検討を行う。

箱崎漁港、沖浦漁港、吉和漁港及び福山漁港においては、健全度Aの漁港施設の機能保全は完了している。今後は健全度Bの漁港施設を予防保全として老朽化対策を推進させる。また、箱崎漁港及び能地漁港の漁業集落排水施設についても、老朽化が進んでいるため、施設を長寿命化させることが課題となっているため、管路の更新や浄化センターの施設修繕の予防保全を実施する。

## (3) 「<sup>うみぎょう</sup>海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

### ①「<sup>うみぎょう</sup>海業」による漁村の活性化

福山市の沖に浮かぶ走島では島民のほとんどが漁業に従事しており、かたくちいわしの加工やのり養殖が盛んである。漁港施設用地の有効活用として、令和2年に陸上養殖施設を誘致、公募により事業者を選定し、養殖事業を開始した。しかし、漁港施設用地内には未舗装の臨港道路が存在する等、利用しやすい環境整備が整っていないため、臨港道路の舗装整備が必要である。

### ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

瀬戸内の干満差が激しい岸壁を利用して漁船への乗降している施設も多くあり、女性や高齢者にとって安全で働きやすい環境となっていないため、浮体式係船岸の整備等により就労環境の改善が必要となっている。

## 3. 目標達成のための具体的な施策

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
-----	------	-----	--------	----	------

該当なし					
------	--	--	--	--	--

## ②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	養殖拠点	県単独事業	—	—	—

### ・具体的施策

広島湾を中心とした本県かき養殖海域において、水温・餌料センサーを設置し、汎用クラウドを利用したデータの蓄積、生産者が入出力可能なアプリ開発を合わせて行い、かき養殖に必要な漁場環境データを収集・活用するシステム整備を行う。

## (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
中西部・備後燧地区	藻場・干潟	水産環境整備事業

### ・具体的施策

沿岸域の環境悪化により藻場が衰退している海域において、キジハタ等重要魚種の生息環境を改善させるため、マスタープラン及び藻場ビジョンに基づき、対象魚種の生活史や藻場の分布特性を考慮した、着定基質（藻場礁、餌料培養礁）の設置を行い、ガラモ場造成を行う。整備後のモニタリングを実施し、適切に維持管理することで、実効性の高い藻場保全・創造対策を行う。

これに加え、漁業者主体の資源管理の推進や、整備施設を活用した種苗放流を行い、水産資源の底上げを目指す。

### ②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
県本土	予防保全	水産基盤整備事業（機能保全・漁村整備）	箱崎漁港	2種	福山港
			吉和漁港	2種	
福山市			福山漁港	1種	
三原市			能地漁港	1種	

### ・具体的施策

箱崎漁港はのりの主要産地であり、吉和漁港及び福山漁港は漁船漁業が盛んな地域で、漁業者を中心とした生産拠点となっている。

当漁港の健全度Aの漁港施設の機能保全は完了しているため、今後は健全度Bの漁港施設を予防保全していくことで施設の長寿命化・延命化を行う。予防保全として浮栈橋、防波堤の保全を実施する。

また、箱崎漁港及び能地漁港の漁業集落排水施設についても、老朽化が進んでいる

ため、施設を長寿命化させることが課題となっている。管路の更新や浄化センターの施設修繕の予防保全を実施することで施設の長寿命化・延命化を図るとともにライフサイクルコストを縮減させる。

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
県離島	予防保全	水産基盤整備事業 (機能保全)	沖浦漁港	2種	尾道糸崎港

・具体的施策

沖浦漁港は漁船漁業が盛んな離島で、漁業者を中心とした生産拠点となっている。当漁港の健全度Aの漁港施設の機能保全は完了しているため、今後は健全度Bの漁港施設を予防保全していくことで施設の長寿命化・延命化を行う。予防保全として防波堤の保全を実施する。

(3) 「<sup>うみぎょう</sup>海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「<sup>うみぎょう</sup>海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
走島地区	活用促進	水産生産基盤整備事業	走漁港	2種	福山港

・具体的施策

走漁港では、令和2年に陸上養殖施設を誘致、公募により事業者を選定し、養殖事業を開始した。臨港道路として未舗装な道路や港内静穏度の不足のため、臨港道路の舗装整備や防波堤の整備を実施する。そうすることで、さらなる利用促進、水産物の安定的供給が図られ、地域の所得と雇用機会の確保に繋げる。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
箱崎漁港 箱崎地区	就労環境	地方創生港整備推進交付金	箱崎漁港	2種	福山港

・具体的施策

箱崎漁港はのり養殖が県内一盛んな地域で、ボラを活用した食品や教育部門と連携して魚類の加工品を作るなどの取り組みを行っている。

当地区は高齢化の進行が課題となっており、漁業従事者は瀬戸内の激しい干満差の



ある岸壁を利用しており、厳しい環境を強いられている。そのため干満差に対応した浮体式係船岸を整備することで利用者が安全で働きやすい環境を整備する。

#### 4. 環境への配慮事項

##### ①沿岸域環境の現状

既存の藻場・干潟を損なわないような配慮が必要。また、清澄な海域も多く、ナメクジウオなどの稀少生物も生息していることから、その生息環境を損なわないことが大切である。

##### ②整備により予測される環境への負荷の程度

工事に伴う濁りの影響については、汚濁防止膜の展張等により周辺環境に与える影響は必要最小限にとどめる。

##### ③リサイクル材の活用

人工礁の機種選定にあたっては、かき殻などのリサイクル材を活用したものを積極的に採用する。

#### 5. 水産物流通圏域図

# 広島県(豊竹東・尾三・福山圏域) 水産物流通圏域図

